

二丈中学校だより「真理」(まこと) 第10号

校訓 自主 共感 健康

めざす学校像「人にやさしい 自然にやさしい はずむように学び合う学校」

糸島市立二丈中学校 平成27年1月15日(木) (文責 校長 坂本美紀子)

「風に向かって立つライオン」であれ！

新年 あけましておめでとうございます。

一年間の総まとめである3学期がスタートしました。始業式で、1年生には、4月に入学する後輩から先輩と呼ばれるに足る実力をつけること、2年生には、伝統を受け継ぎながら新しい二丈中学校の校風を創っていくリーダーとしての責任と自覚を持つこと、二丈中学校で学ぶ最後の学期となる3年生には、全員が志望校合格を勝ち取るために時間を惜しんで努力してほしいと語りました。また、19年に一度訪れる「朔旦冬至」を経ての平成27年は、新しい何かが期待できる特別な年であるといわれています。この一年、生徒一人ひとりが、自分なりの志に向かって、勇気を持って果敢に挑戦する「風に向かって立つライオン」であってほしいと思います。

二丈中学校では、新生徒会が始動しました。旧生徒会は、二丈中の歴史に「あいさつ日本一」と「いじめ撲滅」の礎を築いて、新生徒会へバトンタッチしました。

松本綜太新生徒会長のもと、新生徒会役員をリーダーに、全生徒が新しい二丈中を創っていくという気概と覚悟をもってあらゆる教育活動に臨む一年であれと願っています。



【平成26年度 生徒会役員】

| | |
|----------|--------|
| 生徒会長 | 高橋 汰 |
| 副生徒会長 | 山中 美優 |
| 副生徒会長 | 岩崎 順也 |
| 書記 | 森木 沙瑛 |
| 学習委員長 | 北村 美菜 |
| 生活・環境委員長 | 田中 幸樹 |
| 図書・放送委員長 | 瀬川 開新 |
| 保健・給食委員長 | 志渡 澤巧翔 |

バトンタッチ

【平成27年度 生徒会役員】

| | |
|----------|-------|
| 生徒会長 | 松本 綜太 |
| 副生徒会長 | 久保 公祐 |
| 副生徒会長 | 重富 和楽 |
| 書記 | 梶原 千暖 |
| 学習委員長 | 谷口 真子 |
| 生活・環境委員長 | 山口 大也 |
| 図書・放送委員長 | 居石 正道 |
| 保健・給食委員長 | 梅本 結衣 |

【1・2月の主な行事予定】

| | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1月16日(金) 学校公開日 | 2月 5日(木) 全校集会、生活アンケート |
| 17日(土) 筑前地区新人駅伝競走大会 | 6日(金) 私立前期入試、1・2年学力診断テスト |
| 23日(金) 入学説明会(アプローチレッスン) | 9日(月) 公立推薦入試 |
| 24日(土) 土曜授業(授業参観) | 16日(月) 学校公開日 |
| 27日(火) 私立専願入試 | 13日(金)～20日(金) 朝 部活中止 |
| 28日(水)～30日(金) 職場体験(2年) | 18日(水)～20日(金) 学年末考査 |

「いじめ」のない二丈中学校を創る！！

12月22日(月)二丈中学校の人権宣言ともいえる『「いじめ」のない二丈中学校を創るための決議文』が全校で採択されました。ここに至るまでに、17日(木)朝、全校集会において「考えよう、二丈中の今」(アピール文)を使って生徒会としての思いを伝えた後、各学級で話し合いを行い、学級決議文を作成し、6校時の全校集会において発表しました。各学級の決議文を受けて、生徒会が学校決議文を作成し、全校に提示し、採択となりました。(決議文は、生徒昇降口に掲示しています。)

二丈中学校は、確実に「いじめ0」に向けて舵を切りました。みんなが安心して学習・生活できる二丈中学校をめざして、生徒・教師一丸となって取り組んでいく覚悟です。

「いじめ」のない二丈中学校を創るための決議文

私たちは、無意識のうちに「言葉の暴力」を使い、また、見過ごしてきました。その結果、つらいおもいをする人が増え、「いじめ」が起きてもおかしくない状況になってきました。そこで、「いじめ」のない、みんなが安心できる二丈中を創るために、私たちは、以下のことを決議します。

- 1 人を傷つける言葉は使いません。
- 2 使っている人がいたら注意します。
- 3 言わせない雰囲気づくりをします。
- 4 「あいさつ」をはじめとする、「温かい言葉」を増やします。
- 5 「いじめ」につながる小さな行動を見逃しません。

平成26年12月22日

二丈中学校 生徒一同

新春対談 濱野雅文氏(第44回卒業生)

1月3日(土)に、本校卒業生で、現在フランスのボジョレーでフランス料理レストラン「AU14FEVRIER」のオーナーシェフとして活躍してある濱野雅文氏にお話を聞きました。

シェフを志したきっかけは、中学校時代、女生徒から弁当をほめられ、弁当づくりに工夫を凝らしていったこと、中学時代に自転車を壊されるといじめを受けた時、母親から「山椒は小粒でもぴりりと辛い」と言われ、「自分は今は小さい山椒だけれども、いずれは相手をギャフンといわせる力を持ち、精神的にも強くなりたい」と思ったことが基盤にあるという話をされました。誰にも負けない武器を探すために渡仏し、現在オーナーシェフとして腕を振るう、『こだわりのコース料理』(同じ材料を使わない、フルーツと食用花が特徴)は、ミシュラン一つ星に認定され、本場フランスでも大人気店となっています。「みんなに可能性はある。今の自分がどんなに小さくても、努力さえすれば叶えられる！」と生徒たちへのメッセージをいただいて対談を終えました。

濱野さんの笑顔と穏やかな表情の中に、芯の強さとシェフに一番大切な味覚を育ててくれたご両親や「ふるさと二丈の自然」への感謝の念がありました。次回の帰国の際には、是非、母校二丈中学校で、ご講演と料理の実演をしていただきたいと思います。



【コーヒープレイク】

今年は、終戦から70年、阪神大震災から20年という節目の年でもある。年末年始にかけてうれしい話題が多かった。まず、「風立つライオン」の映画化(3月)と大河ドラマ「花燃ゆ」が始まったことだ。「風立つライオン」は、生涯をアフリカでの医療活動に尽くしたシュバイツァー博士に憧れ、同じ様に巡回医療の医師としてアフリカに渡った医師の話である。「花燃ゆ」は、幕末に松下村塾を開き、明治維新を成し遂げる多くの志士を育てた吉田松陰の妹の物語である。二つの共通点は、「志」に向かって「折れない魂」で生きた人の物語であるということだ。また、箱根駅伝では、圧倒的なタイムで優勝を飾った青山学院大学の選手たちの爽やかな笑顔が印象的だった。例年の「たすきの重さ」「悲愴感」とは異なる、選手一人ひとりの「自立」した走りが、新しい駅伝の道を拓いたような気がする。ただ、忘れてはならないのは、「ワクワク大作戦」と称した原監督の将来を見据えた確かな強化策、そして選手の努力である。原監督も「チーム全員がうそ偽りなくコツコツと努力を続けていた。それが大前提にある」と話していた。折りしも、14日の朝刊に、2年連続サッカー男子世界最優秀選手に選ばれた、レアルマドリードのロナウド選手のコメント「自分の力を信じること。100%努力すること」が掲載されていた。古今東西変わらず「夢や志は、やるべきことを愚直にやり遂げた結果成就する」ということだ。平成27年の二丈中の志実現への歩みも、至誠をもって進みたい。